

池内側代表の畠山さん(右)と二井田側代表の斎藤さん(左)二組の親子三代夫婦を先頭にした渡り初め



夢のある橋

二井田大橋11月19日開通

米代川に架かる市道池内二井田線の二井田大橋は、老朽化に伴い昭和六十二年二月から新橋の架け替え工事が進められていましたが、この工事が十月いっぱい終了し、十一月十九日に開通しました。新設された二井田大橋は、親柱にブロンズ像が設置されたり、照明灯が設けられたりと、すばらしい橋になりました。

親柱に秋田犬のブロンズ像を設置

旧二井田大橋は、昭和三十三年に架けられたものですが、老朽化と幅員の狭さが著しく、交通の安全確保などの上で大きな問題となっていました。このため、市では昭和六十一年度から二井田大橋橋りよう整備事業に着手し、その工事が今年の十月いっぱい終了しました。総事業費は約十二億二千万円です。

旧橋の下流に架けられた新橋は、全長三百四十二メートル、幅員九・七五メートル(車道七・二五メートル、片側歩道二・五メートル)で旧橋の約二倍の幅員になっています。また、橋には照明灯十基を設置したほか、池内地内の狭くてカーブの多い住宅地をう回するような取り付け道路(池内側五百八十三メートル、二井田側二百二十一メートル)も併わせて設けました。さらに、これまでの橋のイメージから脱却した『夢のある橋』にするため、忠犬ハチ公の古里が二井田のなちちんで、橋の親柱四カ所に秋田犬を題材にしたブロンズ像を設置。取り付け道路の転落防止フエンスには、忠犬ハチ公が古里に喜んで帰る姿がデザインされています。

親子三代夫婦が渡り初め

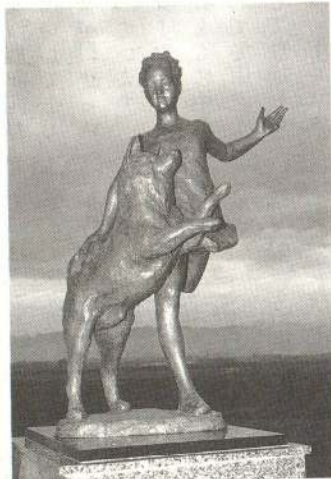
十一月十九日、小雨模様のおいにくの天候の中で行われた開通式には、小畑市長をはじめ、地権者など関係者約二百人が参加しました。

大勢の地元の人たちが見守る中、神事に続きテープカットが行われ、最後に、池内側代表の畠山弘さんと二井田側代表の斎藤藤市郎さん二組の親子三代夫婦を先頭に、参加者全員が渡り初めをして待望の開通を祝いました。

33年間使用された旧橋は来年度解体

新橋と取り付け道路の開通は、市街地と二井田工業団地を結ぶ最短ルートとしての効果を一層高めるとともに、池内地内の交通混雑も緩和され、安全性も向上するものと期待されています。三十三年間使用されてきた旧橋は、新橋開通と同時に全面通行止めになり、来年度に解体されます。

今後は、池内側のJR花輪線を横断し、国道103号に接するまでの市道の拡幅を計画しています。



親柱に設置された「秋田犬と少女」(右)と「秋田犬の親子」(左)をテーマにした二対のブロンズ像